

当院での新型コロナウイルス感染症をきっかけにした PCR 検査の導入について

©金田 航¹⁾、青柳 慧祐¹⁾、山澤 健祐¹⁾、鍋谷 ももこ¹⁾、笹原 洋好¹⁾、小菅 葉子¹⁾、本間 裕一¹⁾
横浜市立市民病院 検査・輸血部¹⁾

【はじめに】

当院では、2020年2月のクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の新型コロナウイルス感染症患者の受け入れをきっかけに検査体制の構築を始めた。当初は横浜市衛生研究所や外注検査室へ委託していたが、神奈川県内の感染者数の増加により迅速な対応が求められたため、2020年4月から新型コロナウイルスの院内PCR検査を開始した。神奈川県唯一の第一種感染症指定医療機関として、情勢に応じた検査体制を随時構築した経験を報告する。

【機器】

1. cobas®z480 (ロシュ・ダイアグノスティックス)
2. MagNA Pure 24 (ロシュ・ダイアグノスティックス)
3. cobas®Liat (ロシュ・ダイアグノスティックス)
4. GeneXpert®システム GX-II (ベックマン・コールター)
5. GeneXpert®システム GX-IV (ベックマン・コールター)

【運用】

各部門からPCR担当者を募り、人員は4人として運用を開始した。2020年4月は、平日のみ30件を上限として

cobas®z480で測定し、上限を超えた分は外注とした。同年12月には48件に検査数を増やし、土曜祝日24件の測定も開始した。2021年6月には平日の検査数を96件に増やし、日曜対応のためにGX-IIを導入、10件の検査を開始した。また、救急外来での夜間使用を含めた迅速PCRとしてcobas®Liatを導入した。7月は自動抽出装置MagNA Pure 24を導入し、省力化されたため外注検査室への委託を終了した。8月にはGX-IVを導入し、土曜日祝日の運用とした。

【結語】

検査体制を随時充実させたことにより、検査件数を増やすとともに報告時間の短縮も行うことができた。また、救急外来患者や入院患者の発熱に対してPCR検査を迅速に行ったことで、病床管理の負担軽減や院内感染の防止に貢献できたと思われる。今後も検査需要に合った体制を柔軟に構築していきたい。

連絡先：045-316-4580